

磯部鉄工、本社に第2工場

下関市と調印 N C 旋盤導入

5月着工



調印式の様子(左から荒木社長、末廣統括監、前田市長)

産業用機械装置製作や特殊鋳物製造を行う磯部鉄工(本社山口県下関市、荒木逸治社長)は本社第2工場を建設する。大型機械装置の製作や受注体制を強化するとともに立型NC旋盤や自動ロボットを導入による省力化や合理化、生産性向上を進める。

大型機械装置を製作

新工場は本社工場の北東に同規模の延べ床面積2300平方メートルの建屋を建設する。今年5月に着工し、来年6月に操業を開始する計画で新たに正社員5人

の雇用も予定する。

地区ではプリチレストンや丸一ステンレス鋼管など取引先の設備投資が旺盛。新工場を建設し、レイアウトも変更することで今までは

対応が難しかった長さのある大型機械装置の製作を可能にするほか、受注体制を強化する。

立型NC旋盤を導入することで超耐磨耗・耐熱特殊鋳物を製造する小倉事業所(北九州市小倉北区)との連携

やBCP(事業継続計画)対応を強化。小倉には自動ロボットを導入し、製品以外の部分を切断除去する作業を機械化し、技能継承と合理化を図る。将来的には本社工場への展開も検討する。

21日には下関市役所で建設に関する協定調印式が行われ、荒木社長と前田晋太郎市長、立会人の末廣一水・山口県産業労働部企業立地統括監が協定書に調印した。

荒木社長は「長府で創業し、今年4月には111年目を迎える。創業以来、下関で事業を続けてこられたのは皆さまのおかげだ。久しぶりの投資になるが、ご期待に応えられよう事業拡大に真摯に取り組む」と意気込

んだ。

前田市長は「これまで100年以上にわたる市経済の発展に多大な貢献をしていただいている。今回の設備投資では市経済の活性化や地元雇用の拡大につながる」と大いに期待している」と述べ、市として最大限の協力と支援を行うことを約束した。

同社は1914年に創業。本社工場では鉄鋼やゴム、建材などさまざまなメーカーの製造現場で求められる設備機械を設計から据え付けまで一貫し手掛けている。小倉で手掛ける鋳物製造では業界に先駆けて産学連携に取り組む、世界的に高評価を集める製品を提供している。従業員数は127人。